



# 東校だより

10月号

令和5年9月27日  
横浜市立東小学校  
校長 保科 桂子

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/azuma/>



「人」 + 「良」

横浜市立東小学校  
校長 保科 桂子

10月27日に「全国家庭科教育研究会全国大会」が東小学校にて開催されます。それにあわせて今年度本校の重点研究会では、1~4年生においては「食育」を中心に、授業づくりについて研究を進めています。9月14日には、3・4組の学級活動、1年2組の道徳の授業を教職員で参観し、研究協議を行いました。

3・4組では、低学年は「げんきのひみつ」、高学年は「健康を考えた食事をしよう」という題材でした。発達段階に合わせて、食べ物の働きを知り、食べることについて考え、意欲をもつ学習を行いました。次の日の給食で「がんばって食べてみたよ」という声も聞こえたようです。

1年2組では、「他国の人や文化に親しむこと」の学習でした。様々な国や文化があることにふれながら、互いを認め合うことのよさについて学びました。「給食にも、いろいろな国の献立が取り入れられている」ことにも気づき、様々な国の食べ物を紹介し合う姿も見られました。

食育基本法では、「子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。」とし、「食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付け」「様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進する」と定められています。学校では、食育の視点「食事の重要性」「心身の健康」「食品を選択する力」「感謝の心」「社会性」「食文化」をふまえながら、学校給食や各教科の学習など関連付けて食育を進めています。学校給食は、ただの「昼食の提供」ではなく、教材であり、生涯に関わる実践の場とも言えるのではないのでしょうか。皆で準備や片付けをしたり、給食をともに食べたりしながら、生産者や給食に携わる人の思い、栄養などの食べ物の働き、食事のマナーやルールを学ぶ機会となります。給食の時間は授業時間ではありませんが、一日に45分間、年間で188回の食に関する学びの時間です。

当たり前のことですが、私たちの体は食べたものでできています。食べないと生きていくことができせん。毎日食べるからこそ、何を食いたいかなが、季節の食べ物を味わったりして、行事食に親しみ、食を楽しんでほしいです。「食」という字を分解すると、「人」と「良」に見えてきます。「人を良くする」「人に良い」ものと考えていきたいです。

全国大会では、「食」「食文化」にかかわる5・6年の家庭科の授業を発信します。東っ子一人ひとりが自分ごととして考え、友だちと学び合う姿を見ていただく機会にしたいです。どうぞよろしく願いいたします。